

氏名	村井 友樹
学位の種類	博士 (体育科学)
学位記番号	博甲第 7821 号
学位授与年月	平成 28年 3月 25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	大日本体育会の成立と変容に関する研究

主査	筑波大学教授	教育学博士	清水 諭
副査	筑波大学助教	博士 (学術)	李 燦雨
副査	筑波大学准教授	博士 (体育科学)	深澤浩洋
副査	筑波大学教授	博士 (文学)	伊藤純郎

論文の内容の要旨

(目的)

本論文は、戦時下の政府による圧力を強く受けスポーツ界の負の遺産とされてきた大日本体育会とはどのような存在であったのかという問題意識から、戦中・戦後に跨がって存立した大日本体育会の実態を把握し、その歴史的な特徴や意義を明らかにすることを目的とした。具体的には、大日本体育協会の「国民体育」に関連する動向を中心とした大日本体育会の設立経緯から、組織や事業の実態、戦後再建までを明らかにすることを研究課題として設定した。そして、「国民体育」の構築に関する視点から、大日本体育協会や大日本体育会の系譜を捉え、スポーツ界の特質について検討した。

(対象と方法)

1942年4月に政府の外郭団体として設立した大日本体育会は、日本体育協会へと改組・改名される1948年11月まで存立した。それが政府の外郭団体であったのは、日本がポツダム宣言を受諾した1945年8月までであり、以後、民間団体として再出発した。本研究は、政府の外郭団体として存立した大日本体育会を主な対象とし、その歴史的な特徴や意義について同会の基本理念であった「国民体育」を基軸として総合的に考察したものである。

なお、本研究では、収集した大日本体育協会及び大日本体育会の機関誌、同会関連の刊行物、未刊行物などを主な史料として用い、さらには、これら史料をGHQ/SCAP Records、プランゲ文庫、体育・スポーツ関係雑誌、教育関係雑誌、新聞などにより補完して考察を進めた。

(結果)

第 1 部では、序章から第 1 章を通して、大日本体育会の設立経緯を明らかにした。陸軍による国民体力が低下傾向にあるとの指摘を契機として、国民体育団体へと舵を切った大日本体育協会は、国民体育に関連する動きを国民精神総動員運動下で活発化させた。一方、新体制運動下に強まった国民体育指導方策としてのスポーツ批判に対応するため、大日本体育協会はスポーツの国策樹立を政府に建議し、それに添う団体へと変質する意向を示すようになった。そして、このような新体制運動下における大日本体育協会の動向には、スポーツを用いた国民体育指導方策の整備・確立が意図されていた。

第 2 部では、第 2 章から第 4 章を通して、大日本体育会の組織や事業の実態を明らかにした。性別、年齢、職域などの違いなく、すべての国民の体力向上のために国民体育を遂行する大日本体育会は、厚生省、文部省、陸軍省、海軍省などの政府機関関係者や大政翼賛会、帝国在郷軍人会、大日本青少年団などの協力団体関係者を役員に加え、これら団体との連携を強化した。また、既存の全国的スポーツ団体を部会として包摂することでスポーツ種目の垣根を超えた連携を密接にした。このような大日本体育会の組織体制は、特に戦況の悪化に伴ってより戦力増強に寄与できるように変容していった。一方、大日本体育会による主な国民体育事業は、すべての国民が戦力増強に最低限必要な基礎体力や基礎技能を習得するための指導者養成であった。このような大日本体育会による国民体育事業は、戦況の悪化に伴ってより戦力増強に直結するように展開された。

第 3 部では、第 5 章を通して、大日本体育会の戦後における変容を明らかにした。軍国主義的な色彩を排除するように寄附行為を改正し、民間団体として再出発した大日本体育会は、すべてのスポーツ団体を傘下に組み込み、戦中期の大日本体育会と類似した全国各地の網の目状の国民体育体制を整備することを計画した。このようなスポーツ界再編構想は、国民体育大会の創設を通して実現が目指された。

(考察)

スポーツ界の要請から始まったスポーツの国策樹立の動きは、政府の施策に呼応して国民体育の諸事業を遂行するスポーツ翼賛団体としての大日本体育会の設立へと帰結した。大日本体育会の組織運営は、主にスポーツ界が担っていたが、その自律性は戦況の悪化に伴い低下し続けた。大日本体育会は、主に指導者の養成を遂行することにより戦力増強に即応し、最終的には銃後国民の生産効率向上や戦場への動員を前提とした軍事予備教育に協力することになった。このような大日本体育会による戦争への協力は、スポーツ界の負の遺産として捉えられて然るべきである。一方、国民体育の遂行を使命とした大日本体育会は、従来のスポーツ界が有していなかった支部組織を設置することで、全国各地に網の目状の国民体育体制を構築した。また、大日本体育会は、国民体育体制を構築することで、全国的かつ体系的な国民体育指導者の養成を実現させた。こうした国民体育の組織体制や指導者養成体制は、戦後の日本スポーツ界へと引き継がれ、その隆盛の基礎を築いたといえる。

審査の結果の要旨

(批評)

本研究は、現在の日本スポーツ界の原型をアジア・太平洋戦争期において探求することを視野に、そこで存立した大日本体育会の成立と変容の実態を分析・考察したものである。これまでスポーツ界の負の遺産として刻印されてきた大日本体育会の組織や事業を史料に基づいて実証した点で評価できる。特に、戦前と戦中と戦後の連続線上で捉え、堅実に実証するだけでなく、その中にスポーツ振興の礎が築かれていたことを浮き彫りにし、今日のスポーツへの貢献も見出すなど、アジア・太平洋戦争期のスポーツ組織史研究を開拓した点で高く評価できる。今後、特定のスポーツ種目や地域の特徴をより鮮明にすることが残された課題である。

平成 28 年 1 月 13 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連

審査様式 2 - 1

事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。
よって、著者は博士（体育科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。